

## 平成 18 年度第 2 回釜石市社会教育委員会議開催結果

### 1. 開催日時

平成 18 年 11 月 30 日（木）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

### 2. 場 所

教育センター 5 階 岩手大学釜石教室

### 3. 出席委員 9 名

柏崎龍太郎議長、柴田渥副議長、嵯峨左千夫委員、栃澤育子委員、山田市雄委員、工藤保治委員、京極絵里委員、神林峰子委員、澤田恭子委員

### 4. 欠席委員 6 名

佐々木暁美委員、菅原 章委員、小野寺有一委員、藤原昌教委員、須藤公文委員、鈴木洋一委員

### 5. 事務局出席者 15 名

河東教育長、岩鼻次長、佐藤生涯学習スポーツ課長、猪又市民文化会館長、柘沢図書館長補佐、矢畑釜石公民館長、小笠原栗橋公民館長、大久保唐丹公民館長、佐々木郷土資料館長、前川生涯学習課長補佐兼文化係長、小池生涯学習係長、小田島主任、前川主任

### 6. 傍聴人 1 人

### 7. 経 過

#### ( 1 ) 開会のことば

佐藤生涯学習スポーツ課長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言。

#### ( 2 ) 教育長挨拶

内容は省略

#### ( 3 ) 社会教育委員会議議長挨拶

柏崎議長からあいさつ。内容は別紙

#### ( 4 ) 協 議

生涯学習スポーツ課（公民館・郷土資料館事業含む）、市立図書館、市民文化会館の平成 18 年度前期実施状況と後期事業計画について、生涯学習係・公民館事業は小池生涯学習係長、唐丹生活応援センター事業を大久保唐丹公民館長、文化係関係事業・郷土資料館関係事業は前川補佐、図書館事業は柘沢館長補佐、市民文化会館事業は猪又館長がそれぞれの資料に基づき説明し、その後質疑応答、意見交換を行った。

（詳細は別紙のとおり）

#### ( 6 ) その他

特になし

#### ( 6 ) 閉会のことば

佐藤生涯学習スポーツ課長が閉会を宣言。

## 柏崎議長あいさつ

会議に入る前に委員の中で問題意識の共有をしておきたい。国会では教育基本法の改正問題等で話題に上らない日々が続いている。教育基本法は成立すると思うが、それよりも日々の子どもを取り巻く現状には目を覆いたくなる事件が頻発していることが問題だ。

今般教育再生会議をスタートさせた。この成り行きからは目を放すことができない。

今後の取り組むべき課題としては、

つながりを持った地域社会の再構築

子どもの生活習慣確立、学力の低下の問題に、学校・地域・家庭が連携を持つ、いわゆる連携だけでなく融合していく段階である。

釜石では来年4月から地域生活応援センターを開設する。私も4回のワークショップに参加したが、非常に議論が沸騰した。具体的な問題提起、アイデアも出された。その中で感じたことは、公民館を含めたコミュニティの大切さということであった。取りも直さず、生涯学習は大切だと市民サイドは認識している。

今後は、市民から提案されたものが事業化に向かってははっきりしてくる。社会教育委員としても大いに関わりを持っていかなければならない。

本日は、既に事務局から資料が送付されているので、説明は的を絞り、協議時間を長く持ちたいと思う。

## 各担当から資料に基づき一通り方針と計画について説明

### 質 疑

山田委員 : 単位未履修問題について説明したい。先月24日富山県に端を発し、県内で私学を含めて40校あまりの未履修が判明するとともに、全国的な問題として取り上げられた。実は4・5年前にも広島県で同じことが起こったが、そのときはこれほど大きな話題とならなかった。94年に世界史が社会の必修となり、高校で習う科目が社会科で3つ履修しなければならなくなった。これは現在の大学入試のカリキュラム、国語や理科に比べても多い。他方では週5日制で時間が削減されてきた。

その弊害として、大学では物理を習っていない工学部生、生物を学ばない医学部生などが目立ったため、そのことへの対応として、文系では社会2科目、理系でも理科2科目受験という流れとなり、かなり窮屈になった。昨今の経済情勢から国立大学志向も相まって現役での合格に期待する声も大きくなっているが、中学での履修不足も影響し、センター試験に特化しなければ間に合わないというのが現状だった。現在、保護者・生徒にも内容を説明した上で補習を行っている段階だ。なぜ、岩手県がこのように未履修が多かったかという問題だが、人事交流が活発だったことも要因だ。

文科省の配慮で70単位のところ50単位でも良いこととなった。放課後、土曜日に補習を行っている。

柏崎議長 : 子どもの居場所がめざましい変化で賑わっている。参画している澤田委員から今後についてのご意見はないか。

澤田委員 : 今年の子どもの来所が多い。昨年度は1日5人位だったが、4月から開所を早め、1日10人平均で来所している。別にイベントを設けているわけでもなく、子どもたちに好きなように遊ばせている。特にカードゲームを行う男子が多い。また、ドッチボールでは

世代間交流も活発になってきている。良い流れと思っている。来年は事業が変わるということで、継続を危ぶんでいたが、説明を聞いて一安心した。今後は子どもたちの遊びだけでなく事業の内容を検討する必要があると思っている。

小池係長 : 次年度からの事業は、文科省と厚労省が連携する補助事業で、原則として全ての小学校区に導入していくというもの。現段階で市内6校を予定している。学校に管理してもらうのではなく、場所の提供を願うというもの。全体の運営は教育委員会が行う。校舎管理の面で学校と詰める部分も大いにある。今後行っていくこととなるが、委託事業から補助事業に変わるため、当市の予算がどうなるかという問題もあり動きが難しい面もある。教育振興運動なども活用していきたいと考える。

河東教育長 : この事業については、マスコミ報道が先行している。学校側としてははっきりしない部分がある。既存の居場所以外の地区では、4月スタートとはならないのではないかと。段階的なスタートとなるかもしれない。

嵯峨委員 : 双葉小学校では独自に進めている。いつでもスタート可能だ。子どもの放課後の状況を言えば、307名中100名が学童クラブ(学校に併設)に通っている。あとの200人の実態というと、1/2は家で一人でテレビゲーム、その他はスポ少や塾通いとなっている。メディア漬けの子どもが多い。放課後の魅力ある空間をつくることは本当に必要でありチャンスがきたと思っている。4月にはスタートしたい。

良い機会なので、日々感じていることを話せば、釜石では個々に様々なことを行っているが、市全体として徹底されていないではないか。**各団体の代表の方を集めて子育て再生会議を開設し、学校・地域・PTAが連携していく。結集しないと危機は打開できない**のではないかと。小学校から対処していかなければならない。この間津波の避難指示が出たが、市全体での実態はどうか?一つになることが弱い。

柏崎議長 : 生の意見として伺い参考となった。以前は子ども育成会というのがあったが今でもあるのか。

澤田委員 : 子ども会は各地区にある。

柏崎議長 : 組織・活動はどうなっているのか。

柴田委員 : 白山小学校地区については、多くのPTAは就労しており、学校に送り出すとそれで終わりという傾向を感じている。**家庭教育が低下している**。子ども会は存在しているが、**他人任せだ**と思う。**教頭先生にPTAのノウハウを一斉にお任せしている学校が多いのが現状**で残念だ。このようなときこそ、**教育振興運動が必要なのに、こちらも低下している**。

嵯峨委員 : 教育現場にいと、少子化の影響、生活保護世帯の増加で大変だ。学校・PTA一つだけ頑張っても効果が無い。何度も言うが結集することが必要だ。

柏崎議長 : 今年の春に教育長が教育方針の中で「**早寝、早起き、朝ごはん**」ということを話した。その後どのような活動をしているのか。PTA・地域に何を求めていくのか。学校からSOSを発信していくことが必要なのか。

嵯峨委員 : 人との関わりが薄い。痛ましい事件も起きている。**地域共同体感覚が欲しい。個性はあっても良いが、補える力が欲しい。それが基盤だ**と思っている。**大人・地域が子どもたちにとって何が必要なのか再認識**すべき。

河東教育長 : 今、大事な話をしている。昨日教育再生会議があったが、本当に教育・子どもを分っているのかと思いたくなる。嵯峨委員の言っていることももっともで、やはり**教育振興運動が原点**だと思う。**現状は形式だけでPTAの会**となっている。釜石地区の教師は3~4割で、地域を知っている先生が少ない。学校ごとの課題をワークショップで掘り起こす。何も先生

が事務局をやる必要はない。地域が本気にならないといけない。会合に集まる保護者、子どもは問題ない。来ない人をどうするかが問題だ。

釜石の中には、「早寝・早起き・朝仕事」をやっている地域もある。どこの教育振興運動の原点は地域だ。

山田校長の言っていることも判る。沿岸は公教育しかないが、学校だけでは限界がある。原点は教育振興運動ということを経頭にも折に触れ話している。

柏崎議長 : **健康まちづくりフォーラムでは、学校の問題は各部会でも出てこなかった。ここに根深い問題**であるのではないか。どこが音頭をとるか。その点で教振は良い機関だ。健康な学校づくりに向け議論したら良いと思う。

柴田副議長 : 教振についてはモデル事業での取組みはないか。**モデル地区をつくり指導**していくべき。

河東教育長 : P T A活動の一部となってしまった。地域が全然入っていない。

工藤委員 : かまいし情報カレンダーを見るときどこにアクセスすれば良いのか。

もう一つ芸術文化協会の話だが、芸術文化祭のとき、**自販機のため場所が取れなくなり華道の部が展示できなかった**。設置については賛成だったが、場所については聞いていなかった。その後文化会館に問合せ、場所を変えることはできないかと聞いたところ、通らなかったと聞いた。100人を超える団体が参加できなかった。

また、生涯学習推進計画での300人程度のホールについても、検討されていない。

猪又館長 : **自販機については8月4日の運営委員会に諮った**。その中で芸術文化祭のときホワイエに展示させるのはいかなものかという意見もあった。西側の搬入口側に自販機を移動させてはどうかという話もあったが、管理面で問題があり今の場所となった。**スペースだけが問題であるなら、場所替え或いは特別に華道だけ別日程で開催する**という対案を出したが、納得が得られず展示を見送ることとなった。

工藤委員 : ホワイエは華道の人たちが優先して使うということになっていた。芸術文化協会の会長が文化会館運営審議会の会長なのであまり言えないが・・・。

猪又館長 : 場所云々ではないという感じを受けた。トイレの近くということもあったのではないか。

河東教育長 : 展示会場については輪番制で回っている。このことだけでなく課題が見えてきた。**実際に文化会館だけでは手一杯だ。また、芸術文化協会に参加していない人たちの参加はどうなるのか**ということも考えなければならない。

柏崎議長 : 一般参加者の入る余地の問題。入るスペースが現実的にあるかということもある。できるならば来年には間に合わせることでお願いしたい。

工藤委員 : 正確には来年が配置替えの年となる。ただし、実態として半分が固定している状況である。一般の参加に関しても受け入れている。ただ、**団体に所属している人以外入りたい場合は、特別な機会を設けていただければありがたい**。

小池係長 : カレンダーに件について、アドレスを言うより、釜石市のホームページの目立つところにアイコンができるので、そちらから入り閲覧してもらおう。また、300人程度のホールの件、或いは**展示についてだが、青葉ビルのホールの活用も考えてはどうか**と思う。

柴田副議長 : パソコンがないので、配布してもらえないか。

小池係長 : 今日はまだ作業途中で間に合わなかった。後日委員の皆様にはカレンダーの情報紙版を送付したい。

柏崎議長 : 傍聴人がいらしている。特別なことだが、何か意見等あれば発言をいただきたい。

傍聴人 : 唐丹・橋野地区では地域の関わりことはできる。問題は市街地で、釜石中学校は野田から新浜町までの範囲となっている。**まだ3校バラバラに集まっているが、認め合う部分も**

あるとのことで比較的上手くいっていると思う。ちらほら問題のある学校の話も聞く。現場で明るく授業を受けることができる姿が大切。

成人のつどいについては、いつまで市がやっているのかという感がある。毎年新成人が怒られる式典だ。盛岡では実行委員会形式でやっている。若い人たちがつくる成人式を考えてはどうか。

小池係長 : 成人のつどいも随分と変わってきている。**ビデオレターや、新成人が釜石の 20 年を振り返るなど、映像的な要素も取り入れている。**また、釜石市の成人のつどいへの参加者の多くは市外からやってくる。そこに内陸との大きな違いがあり、実行委員会の組織は難しいのが現状だ。ただし、今後とも可能性については検討すべきと考える。

柏崎議長 : リーダーづくりが必要だ。**特に高校生リーダーを育てることを考える必要がある。**今までの努力を否定するものではないが、昨年より一歩前進、下期・次年度につなげていただきたい。

ところで、国際交流協会の現状は。

京極委員 : ちょっと足踏み状態だ。会議の機会がなかなかとれない。

柏崎委員 : 公民館、郷土資料館もユニークな事業を行っている。生活応援センター設置に伴ない、公民館もまた注目される。地域に根ざして成果・実績は枚挙にいとわない。是非頑張ってください。

#### 【主な質疑・対応方針等】

意見) 教育振興運動の活性化。モデル事業化も考慮すること。

質問) 釜石市芸術文化祭のあり方。市民文化会館の対について

課題として芸術文化協会に加入していない団体の参加、或いは一般の参加希望者への対応についても今後の検討課題とする。

質問) 成人のつどいのあり方。いつまでも市ではなく、実行委員会方式に移行してはどうか。

催事内容的には実行委員会形式と大きな違いは無いと考えるが、引き続きあり方について検討していく。